魔死吐？の３００字小説集

魔死吐？

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
魔死吐？の３００字小説集

【Ｎコード】
Ｎ８１６３Ｉ

【作者名】
魔死吐？

【あらすじ】
ここに私が書いた３００字小説を載せていきます。
不定期更新ですが良ければ読んで行って下さい。

君にささげる思い・・・

君が彼らの仲間からはずされてどれだけの月日が経ったのだろう。
みんなが君を彼らとは違ったんだって言うけれど、
君にささげる思い・・・
今でも君が彼らと同じなんだと僕は信じている。
初めて君が僕らの前に姿を見せてくれたときは
もうずいぶんと前だけど
その時に、僕らは君を彼らの仲間だと思い込んだ。
僕らの勝手な考えで君を彼らの仲間だと思い込んで
いまさら違うって、彼らの仲間からはずそうだなんて
おかしな話だと僕は思うよ。
確かに君は彼らとは違ったのかもしれない。
だけど君が今でも太陽の周りを
彼らと同じように回っているのはかわらないんだ。
『冥王星』、君は僕の中ではいつまでも9番目の惑星なんだ・・・

それはコレからもかわらない。

君にささげる思い・・・（後書き）

この作品は私が始めて書いた３００字小説です。大学の課題として書いたのですが、小説というよりもポエムのような気がする作品です。

何処だ？

気がつくと俺以外は何も無い真っ白な空間に立っていた。

俺は何でこんな場所に居るのか思い出そうとして諦めた。

自分が誰なのかもわからない。

『よぉ、どんな気分だ？』

急に背後から声を掛けられて俺は振り返った。

声からして男だろう、俺は1人じゃなかったという安堵感から

声を掛けてきた人物を見て固まった。

ソコに居たのは真っ黒い影のようなモノだった。

とうてい人には見えないソレが俺の目の前に居た。

『自分が誰で、何で此処に居るのかわからないってツラだな。』

何でそんな事を知っているんだ？

『俺はお前に理由を思い出させてやりに来たんだ。』

そう言って影は俺に向って手を突き出す。

そして俺はようやく理解した。

俺は死んだんだ・・・

何処だ？（後書き）

この作品も大学への提出用に書いた作品です。
私にとっての死後の世界を書いてみました。

１６年後・・・

「よぉ、久しぶりだな。」

そう掛けられた一言に振り返った。

ソコに居たのは仮面を被った男だった。

（誰だ、こいつは？）

眉間にしわを寄せながら考える。

ここは公園のようだが、俺と男しか居ない。

それに、公園に来た記憶が無い。

「どうした？変な顔して。」

男はそう言って俺の肩に手を置く。

「お前は誰だ？」

男の手を払いのけ、ようやく口にした言葉をぶつける。

「俺が誰か？　覚えている筈だろ。」

男はそう言うと仮面に手を伸ばす。

取り払われた仮面の下の顔を見て言葉を失った。

「だって俺を殺したのは・・・」

はっ！

ソコで眼が覚めて飛び起きた。

そして夢に出てきた公園に向った。

あの男はまだ俺を恨んでいる。事件から１６年経った今でも・・・

１６年後・・・（後書き）

この作品は「何処だ？」と関係のある作品です。
１６年後の理由は、時効が過ぎて１年という記憶が風化し始めるだろう時期を考えて設定しました。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8163i/

魔死吐？の３００字小説集

2010年10月17日02時23分発行